

建設常任委員会管内視察報告書

西宮市議会議長 澁谷 祐介 様

令和3年(2021年)1月12日

■視察日時 令和2年(2020年)11月16日(月)
午前10時45分から午後0時20分まで

■視察委員 委員長 大原 智
副委員長 やの 正史
委員 川村 よしと
" 河本 圭司
" 草加 智清
" 花岡 ゆたか
" 町田 博喜

■視察先 武庫川河川敷
阪神電鉄橋梁付近(兵庫県西宮市小松南町1丁目13)
南部橋付近(西宮市東鳴尾町2丁目5)

■視察事項 武庫川整備の進捗状況

■視察概要

○目的

「河川整備計画(平成23年～令和12年)」にて進められている武庫川の防災・減災対策の取組みを確認すること。

○事業内容

下流部築堤区間における「低水路拡幅」、「河床掘削」、「橋梁架替・補強」、「堤防強化(浸透対策)」、「堤防強化(侵食対策)」の5事業

○現場での見聞概要

上記事業に関する工事状況を、兵庫県・県土整備部・武庫川総合治水室の担当者より、詳細な説明をいただいた。

武庫川は、2級河川としては、想定氾濫区域内の人口と資産が全国1位であり、昨年の新聞報道でもあった令和元年10月の台風19号並みの豪雨となった場合、武庫川も氾濫する可能性があるとの県の試算を受け、視察現場では、担当者への具体的な質疑も活発に行われ、各委員からは、県の計画の前倒しを支持する声や新たなダム活用の検討すべきとの問題提起などがなされた。

今後の委員会議論では、新たな論点も策定し、施策テーマの最終提言に向けて、市民の避難行動の後押しとなる研究を進めていく予定である。

このあと、当日の視察を受け、各委員から寄せられた意見・感想・提言を掲載する。

■各委員の意見・感想・提言

やの副委員長

武庫川に関しては今まであらゆる方策で治水のため、河川整備が行われてきました。しかしながら、今でも不安を感じる市民がおられるのも事実です。この不安を払拭するためにも、必要とされる地域にはその対策と地元説明会を今後も続けていただきたいと思えます。

50年、100年のスパンで考えるのであれば、武庫川の下に直径10m以上の通路を造り、水が流れるようにし、同時に道路として利用できるようにすれば、いくつかの問題も解決できると思えます。

川村委員

武庫川の治水については、私が議員になる遥かに前から重要な政策課題として位置づけられてきたものと認識している。大型台風が頻発している影響から、近年は特に、重要かつ緊急度が高まっていると言える。

私が今回の視察で気になったのは、武庫川は2級河川の中で人口が110万人、資産が18兆円、全国1位とのことだが、武庫川を境に東西の人口、資産を比較するとどのような数値になるのか、その数値は治水対策の優先順位に反映されているのかということである。

現地視察の際に、今年度は予算を増額して約60億円を投じて工事を進めているという話を伺ったので、工事場所の優先順位をどのように決めているのか、その基準について質問したところ「地元で協議がまとまった所から着手している」との回答であった。

実務を考えれば、そのような回答になるのも分らなくはない。しかし、正直に申し上げて、それでは住民全体に論理的に説明するのは難しいと感じた。その財源は、国・県と出所は分かれているものの、巨額の税金を投じていることに変わりはない。

だからこそ、危険度なのか人口なのか資産価値なのか、明確な基準を定めて河川整備計画を進めるべきであると再認識させられる管内視察であった。

河本委員

侵食対策・河道拡幅予定地・潮止堰等兵庫県を担当者様に詳しく説明を受け、大変貴重な経験ができました事と、今まで何気なく見ていた、潮止め堰の役割と撤去後の対策がしっかり解り安心致しました。

現場視察ですが、コロナ禍で無ければもっと広範囲な視察も出来ただろうと思うと少し残念な思いです。

草加委員

現在、県の方で進めて頂いている武庫川整備の中で、浸透対策と浸食対策は完了しているが、堤外地の浸食対策では、ハイウォーターレベル地点まで、コンクリートブロック等で補強し、その上から土を被せ芝生等を植えて、景観上も配慮されている工事に改めて感心した。ただ、環境問題や景観上に配慮したことで、表面上は何も補強されていないように勘違いされやすいのが、現実であり残念である。

限られた箇所ではあったが、河道掘削工事と河川拡幅工事の進捗状況についても、今回の管内視察で良く分かった。

その他、武庫川整備の関連で、潮止堰は河道掘削のため今後は撤去される予定であることや、南部橋の架け替え工事も順調に進んでおり、架け替えが終わると旧橋では橋脚が8本だったのが3本になり、河川の断面阻害も軽減される。とにかく、災害は工事が終わるのを待ってくれないので、一日でも早い工事の完成が待たれる。

管内視察前の勉強会では、私が県の方に質問したことで一番知りたかった、これまでの流れでは、ダム建設は見直されての総合的な治水対策を進めてきた経過が有るが、昨今のような大型台風に関連した豪雨の被害や梅雨前線と線状降水帯による豪雨の被害が、毎年、全国各地で発生している状況とR元年に県のシミュレーション結果で台風19号級の豪雨が降れば、工事が完成していたとしても武庫川は氾濫する可能性が高いことが裏付けられたが、今後、治水対策の見直しの時期に武庫川ダムの建設は改めて考えられるのか？ということが、全ての治水の選択肢を排除せずに検討し、次期整備計画を策定するとのことで、ダムの建設も排除されないことが分かった。

ダム建設を排除しての治水対策は形成合意がしやすいが、長い時間と大きな費用が掛かるのも事実である。

自然を守ることは、もちろん大事だが、市民の命と財産を守ることは行政の使命である。

ダム建設と堤防強化などの補完的な治水対策を組み合わせることが、これからは大事なのではないかな？

花岡委員

(感想・意見)

侵食対策工事が、旧国道付近で進んでいることが分かった。そこで、県の出している「武庫川の川づくり」にある、「上下流部に比べて流下能力が低い区間」が、工事の対象となっている事が分かった。

潮止堰が撤去されるが、そうなると、1号床止より下流が雨が少ない時に濁水し、河床が露わになる事が予想される。現在、旧国道付近では平常時、流れもほとんどなく、水深も浅く、子どもたちが遊ぶ良い親水空間となっているが、それが無くなる不安がある。

河道拡幅予定地と、既に河道拡幅が済んだ区間を見たが、これで武庫川の氾濫の危険度が下がったとは思えない。

南部橋の橋梁架け替えでは、橋脚が3本に減り流れを遮るものが減って良いと思う。

いずれにせよ、侵食対策工事・河道拡幅工事が完成しても、武庫川の氾濫の危険度はさほど下がらないと考えられる。武庫川ダム(流水型ダム)の早期着工・早期完成を望む。

(市への提言)

兵庫県に武庫川ダムの早期建設を求めるべきではないか。また、地元選出の赤羽国土交通大臣に、直接、陳情するべきではないか。

町田委員

近年、大雨や台風の影響により河川の氾濫が相次いでいます。

私たちの住む西宮にも武庫川があり、大雨により河川の氾濫はないのか気にかかる所です。

今回の管内視察において、兵庫県から武庫川の防災・減災対策の説明を受け武庫川の整備状況が理解できたが、一方で河川の氾濫に対する不安が払拭されたわけではありません。

最近の一番近い大型台風は、昨年10月の台風19号で、この台風並みの大雨があれば武庫川などの河川が氾濫の恐れがあると兵庫県が試算をしています。

このような試算が出た以上、武庫川の整備状況はどのようになっているのか現状を把握する必要があると考えます。

武庫川の概要として、想定氾濫区域内の人口と資産は二級河川では全国1位で、武庫川が一旦氾濫すれば相当な被害が出ることは言うまでもありません。

武庫川下流部において築堤、河床掘削などの本格的な改修工事が大正9年からとなっており、現在も過去の水害を教訓に改修工事が行われています。

昨今、想定外の降雨量や想定外の被害といったことを耳にしますが、災害を防ぐ意味で、今できる対策を遅滞なく進めていくことが大事と考えます。

県では、堤防の強化や河道掘削のほかに、洪水調整施設として遊水池の整備や既存ダムを活用し、既存ダムを含む流域全体の治水量を確保するための新たな取り組みを実施しているとのことですが、新たにダムを新設する必要があるのか十分な検討を行うべきと思います。

(提言等)

- ①今後、武庫川の整備状況を見ながらダムの新設も必要かどうかを注視・検討していく必要がある。
- ②既存ダムの活用とダムの新設の検討に合わせて、遊水池の増設の検討・要望を行う。

今回の管内視察では、現在、施工中の武庫川下流の南武橋掛け替え工事の現地視察も行いました。

この新設橋については、河川の流量を確保することから、既存の橋に比べ橋脚の数が減らされているとのことですが、別の見方をすれば、橋梁の橋脚は、川の流れに対する障害物であるとも取れます。

(提言等)

武庫川には、南武橋以外に川を横断する既存の施設（鉄道・高速道路など）あることから、既存施設の架け替えを行う際には、南武橋と同様に橋脚の数が減るのかどうか注視する必要がある。

■視察風景

